

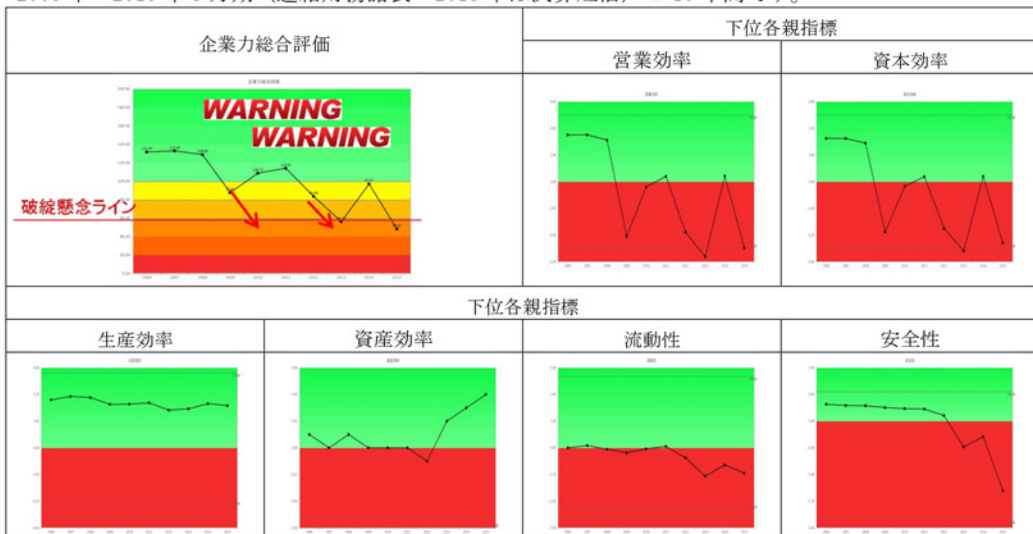


# 経営分析ニュース

第115号  
2015年6月20日発行  
毎月20日発行

今回は、シャープ株式会社を分析しました。2012年、2013年、2期連続で営業赤字を出し、構造改革に取り組んできましたが、その後どうなっているでしょう。

2006年～2015年3月期（連結財務諸表 2015年は決算短信）の10年間です。



企業力総合評価は、131 → 132 → 128 → 87 → 108 → 114 → 83 → 56 → 97 → 48 と推移しています。

2009年は、翌年も同じトレンドで悪化したらあと1年で60ポイント以下の破綻懸念へ行く状況でした（↘）。2012年も同じくあと1年で破綻懸念へという状況で、翌期2013年には破綻懸念領域へ突入しました。2014年は改善したものの、2015年再度の破綻懸念領域。48ポイントでWARNINGも2個ついでにしまいました。

営業効率（儲かるか指標）、資本効率（株主の評価指標）は、2009年、2012年、2013年、2015年ほぼ底値です。

生産効率（人の利用度）は、青信号領域を安定しています。売上高、従業員数が減っていない結果です。

資産効率（資産の利用度）は回復トレンドです。資産効率の改善と安全性を合わせて見ると、留保利益が流出し資産総額が減ったので、売上高と資産のバランスである資産効率が改善し、安全性は悪化しています。

流動性（短期資金繰り）は、赤信号領域を更に悪化しています。

営業効率について、もう少し見てみましょう。次の表をご覧ください。

まず、売上高を左から右へ見てください。2006年の2,797,109百万円から2015年の2,786,256百万円まで、あまり変わりません。売上高は減っていないのです。

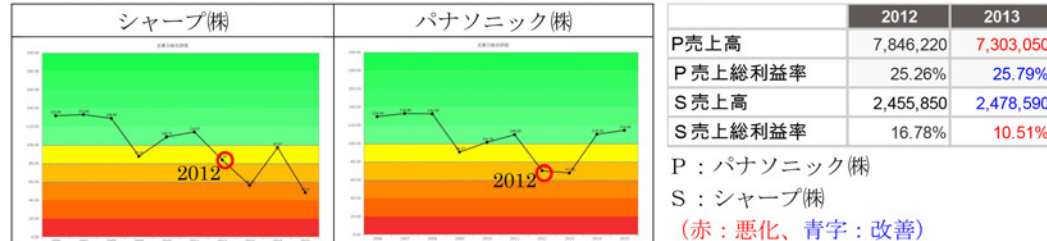
次に、販管費（販売費及び一般管理費）を見てください。2006年468,273百万円から2015年の436,572百万円まで、こちらもほぼ変わりません。結果として販管比率（販管費/売上高×100）の変動は4%以内です。

では次に、売上高総利益率を見てください。2006年の22.59%から2015年の13.94%へ、8.65%も悪化しています。ここが問題なのです。

これが、他の財務指標にも影響を及ぼしました。営業外損益を見てください。巨額赤字が原因で、財務コストがふくらみ、特に2013年以降、営業外損失が増えています。

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
売上高	2,797,109	3,127,771	3,417,736	2,847,227	2,755,950	3,021,970	2,455,850	2,478,590	2,927,186	2,786,256
売上原価	2,165,126	2,414,592	2,662,707	2,392,397	2,229,512	2,452,342	2,043,840	2,218,000	2,396,344	2,397,749
売上総利益	631,983	713,179	755,029	454,830	526,438	569,628	412,010	260,590	530,842	388,507
売上高総利益率	22.59%	22.80%	22.09%	15.97%	19.10%	18.85%	16.78%	10.51%	18.13%	13.94%
販管費	468,273	526,648	571,337	510,311	474,535	490,732	449,560	406,849	422,282	436,572
販管費率	16.74%	16.84%	16.72%	17.92%	17.22%	16.24%	18.31%	16.41%	14.42%	15.67%
営業利益	163,710	186,531	183,692	-55,481	51,903	78,896	-37,550	-146,259	108,560	-48,065
売上高営業利益率	5.85%	5.96%	5.37%	-1.95%	1.88%	2.61%	-1.53%	-5.90%	3.71%	-1.73%
営業外損益	-12,858	-15,947	-15,293	-26,950	-20,908	-19,772	-27,885	-60,222	-55,283	-48,461
経常利益	150,852	170,584	168,399	-82,431	30,995	59,124	-65,435	-206,481	53,277	-96,526
売上高経常利益率	5.39%	5.45%	4.93%	-2.90%	1.12%	1.96%	-2.66%	-8.33%	1.82%	-3.46%
当期純利益	88,671	101,717	101,922	-125,815	4,397	19,401	-376,076	-545,347	11,559	-222,347
売上高当期利益率	3.17%	3.25%	2.98%	-4.42%	0.16%	0.64%	-15.31%	-22.00%	0.39%	-7.98%

同じ2012年に危機を迎えたパナソニック(株)と比較してみましょう。



シャープ(株)とパナソニック(株)の企業力総合評価を比べると、2012年時点では、パナソニック(株)が70.08ポイント、シャープ(株)が83.68ポイントで、パナソニック(株)の方が厳しい状況でした。しかしその後パナソニック(株)はV字回復を果たし、シャープ(株)はさらに悪化しました。

パナソニック(株)は、2013年は売上を追わず減収にして売上総利益率を改善し、シャープ(株)は増収にして売上総利益率を大きく悪化させました。

## まとめ

シャープ(株)は、2009年から7年経った今、まだ危機を脱することができていません。経営計画には「抜本的構造改革」という文字があります。でも数字の動きを見ていると、悪いところを切り捨てる再生というより、今までどおり増収を狙っていくことから抜け出せずにいるように思えます。

**編集後記** 今度のAQUOSは高画質4K液晶。技術力の素晴らしさは日本の誇りです。  
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-9-21 SARUKIビル4F 猿木真紀子税理士事務所  
Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp